

歯学部新入生への期待

歯学部長 ◆ 杉中秀壽

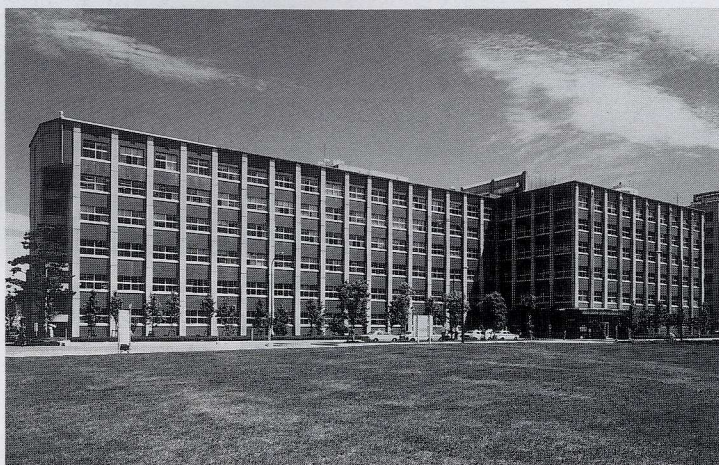


新入生諸君、歯学部への入学おめでとう。

広島大学歯学部は、全国の国立大学歯学部のうち三番目に設置され、今年で二十九年目になる。我々の学部は、人生にたとえ

極的に勉学に励んでいただきたい。

諸君はちょうど今、青春時代の真っただ中にいる。この時代は、心と身体を鍛え、また人格を形成する時期でもある。この時期には、どんなことでも話せる師と友人を、ぜひ持つべきである。人生の師は、何もうる先生とは限らないが、大学の友人は、一生の友人である場合が多い。



歯学部、同附属病院の建物を望む

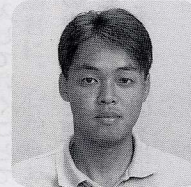
このような時期に入学してきた諸君には、先輩たちの築いてきた伝統を受け継ぎ、さらなる発展のために、将来指導的な立場の歯科医師や、世界に通用するような歯科医学の研究者を目指すことを期待している。

そのためには、まずたゆまない勉学意欲と健康管理が必須であろう。高校時代までは主として受け身の教育を受けてきたと思うが、これからは単に知識を得ることだけにとどまらず、旺盛な探求心をもって積

最後に、この二十世紀の歯科医療とこれからの歯学部を背負って立つのは、まさに、諸君であることを忘れて欲しない。(すぎなか・ひでかず)

新入生諸君へ

歯学部学生 ◆ 中田正樹

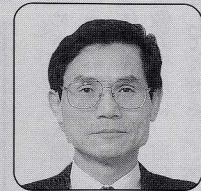


新入生の皆さんへ最大級の歓迎の意を込めて、おめでとう。と言いたい。周囲の人からは何となく「おめでとう」と言われたらうけれど、一体、何が「おめでとう」のか、一度考えてみてほしい。

自分のことを考える限りでは、受験生活からの開放感と、大学生という、いかにも自由な香りのする言葉に喜々としていたのを思い出す。

ほんとうに何もなかったか

工学部長 ◆ 茂里一紘



入学おめでとう。長い受験勉強と入学試験の後だけに、諸君も、きつと嬉しさをいっぱいのことでしょう。

その嬉しさも一段落すると、キャンパス周辺の生活が都会生活とはいささか異なることに気づき、そして、幾人かは「西条には何もなかった」とこぼすことでしょう。

ところで、君たちが期待していたものは、繁華街？ デパート？ 本屋？ それとも待たずに乗れる電車？ しかし、考えてみれば、大学入試という、定められた設定と出来合いのものに、ただただ受動的に従ってきた君

皆さんは、これからの人生の流れの中で最も大切な時間を、広島大学で過ごすのである。大学生活の開始と同時に、皆さんをとりまく環境は一変するだろう。全国から集まってきた友人たち、あまりにも個人的な先輩たち：等々。しかし、この新しい生活は、悪戯に時間が流れるだけの生活となりやすいことを知っておいてほしい。だが、いいかえれば、積極的に何かをするだけの十分な時間は保証されているということだ。

君たちには、その何かを求め、ぜひ、苦しんでほしい。意地悪な言い方だが、これこそ大学生活を精いっぱい楽しむということなんです。(なかに・まさき)

たちが求めていたものは、教科書や受験雑誌に書かれていない君独自の新しい価値を、君自身の意志で発見し、その喜びを味わうことではなかったのか。なるほど、西条には出来合いのものは少ない。しかし、西条には、出来合いでないたくさんの秘められたものがある。アパートからの三キロは歩いてみたらどうだろう。路傍に精いっぱい生きている生命を発見する。距離を知り、坂道で重力を実感することができ。冷え込んだ夜の満天の星は、ロマンを教えてくれる。小さな町は、人と人を親しくする。夜の静けさは、書物

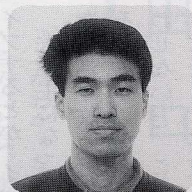


昭和57年3月、第一陣として西条キャンパスに移転した工学部の高層棟

有限な時間の中で

工学研究科学生 ◆ 谷江健

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ここでは、自戒の意味もこめて、先輩としてアドバイスを送ります。



諸君にとっていつまでも何もないところであろう。実は、大学というところも、またそうなのである。

新しい発見と、いい出会いのある四年間であってほしい。(もり・かずひろ)

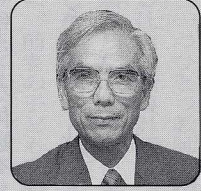
これから新しい生活を迎える皆さんは、不安よりもむしろ期待に満ちていると思います。その期待を実現するには、積極的に行動し、自分自身を磨いていくことが大切です。

勉強、遊び、スポーツ、恋愛(友情)、その他やりたいことは、自分の責任でもって自由に行ってほしい、誰も強制はしない。ただ、多くの物事は、一朝一夕で実現されることはなく、少しずつ積み重ねる必要があることを考えておくべきです。在学中の四年間という有限な時間のなかで、どれだけのことができるか考え、目標をしっかりと持って、充実した大学生活を送ってほしい。少し堅苦しくなったけれども、広島大学に集う仲間として、改めて歓迎します。

最後に一言、楽しい時もあれば苦しい時もあるのが世の常で、困った時は、迷わず仲間(教職員の方々、先輩や同級生)に相談しよう。(たにえ・たけし)

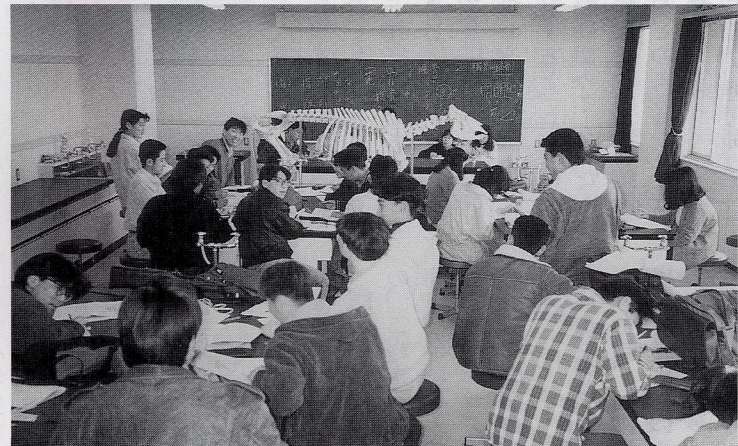
光彩を放つ実り多い自分史を

生物生産学部長 ◆ 畑中千歳



新入生の皆さん、入学おめでとう。広大生として、生物生産学部生として、西条キャンパスに記念すべき第一歩を踏出した皆さんに、心からの祝意と歓迎の意を表したい。

での四年一貫新カリキュラムが実施される。生物生産学部では、それに加えて、これまでの三コース教育を六コース制に編成しなおして君たちのニーズに応えたいと考えている。昭和五十四年の学部改組に続く教育組織の再編改組である。



牛の構造を理解する実験実習の一コマ

コース(海洋生物生産学、生物圏機能学、畜産科学、食糧情報管理学、分子細胞機能学、食資源機能学)の選択は二年次後期に行うが、平成六年度入学生は、君たちは、まさに六コース教育の第一期生である。ここからいかなる伝統が生まれてくるか楽しみである。

大学へ入学するということは、大人社会への新たな門出の第一歩である。その意味で、これから始まる大学生活は、君たち一人ひとりの人生にとって大切な時期である。君たちの多くは、おそらく初めての単身生活に悪戦苦闘しているのではないかと想像する。衣、食、住、身のまわりの生活様式の激変に耐えることは、勉学以前の切実な問題である。自分なりに、納得のいく充実した学生生活を構築するよう努力してほしいと願っている。

今年から全学部で、入学から卒業ま

(はたなか・ちとし)